

『聖書がもたらしてくれる神の恵み』 '20/06/14(ライブ礼拝) 聖書箇所: II テモテへの手紙 3 章 12-17 節(新約 p.416)

いよいよ、梅雨のシーズンになりました。ここ数日も、梅雨らしい天候となっておりますが、すべてを、みこころのままに導いてくださっている神様を、精一杯の賛美でもって、ほめたたえましょう！まずは、賛美集 22番、「生ける限り主を」を2回繰り返して、賛美いたします。

<メッセージ>

もしも…、皆さんが周りにおられる方から、このような相談を受けられたら、どのように返答されるでしょうか？「あのね…、実は、すっごく良い話があって…、今、100万円を預けたら、1年後には200万円になるらしいねん！（あるいは…、）今、100万円を預けると、同じ金額分の“円天”がもらえて…、預けたお金は減ることなく、その円天で買物ができるねん！（あるいは…、）今、関西一の相場師から、投資の話があって、元本も保証してくれるらしいねん！」何だか、どこかで聞いたような話ばかりですね…。

じゃあ、こういうのはどうでしょうか？「ここで祈禱をしたら、どんな病気も治るらしいねん！（あるいは、）いや…、自分の家の家相を見たら、ちょっと工事をするだけで、商売がうまくいくらしいねん！」もう十分だと思えますが…、私たちの周りには、こういったような…、ある意味、おいしい話がたくさんあります。しかし、間違いなく、ここにおられる皆さんは、そういった話があっても、そう簡単には騙されたいと思います。だって、そういった話を信じるだけの“根拠”が無いことを、皆さんは知っているからです。

命題: 聖書がもたらしてくれる恵みとは、どのようなものなのでしょうか？

でも、聖書は、そういった詐欺まがいの話とは違います。今日、私たちは、聖書が私たちにもたらしてくれる、まゆづばではない…、“本当の恵み”というものについて、ご一緒に学んでいきたいと思えます。神のお言葉である聖書は、私たちに一体、どのような恵みをもたらしてくれるのでしょうか？聖書の箇所は、II テモテ 3:12-17 です。どうぞ聖書をお持ちでしたら、II テモテ 3 章をお開きください。

I・信仰による 救い ! (12-15 節)

まず初めに、今日与えられたみことばが教えてくれていることは、「信仰による救い」です…。神様は、この聖書を通して、私たちに、「信仰による救い」という、素晴らしい恵みを与えてくださるのです！

12 確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。

13 しかし、悪人や詐欺師たちは、だまされたりしながら、ますます悪に落ちて行くのです。

14 けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、

15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。

●聖書が教える、「悪人たちの末路」

まず、ここ 12 節には、『確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。』とあります。ここで、『敬虔に…』と訳されている言葉(εὐσεβῶν)は、「敬虔である(の他に)、敬う神を畏れ敬う(→神に従う)」という意味があります…。この箇所だけではありません！聖書のいたる所には…、この聖書が教える真の神様だけを信じ、イエス・キリストに従おうとする時には…、必ず、そこに問題や迫害が起こることを教えてくれています…。

ある時、イエス様は弟子たちに、こんな警告をなさいました…。ヨハネ 15:18-21、『18 もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。20 もしもはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばも守ります。21 しかし彼らは、わたしの名のゆえに、あなたがたに対してそれらのことをみな行います。それは彼らがわたしを遣わした方を知らないからです。』

このように…、イエス様もおっしゃいます！イエス様が、この世にあって迫害されたように…、イエス様を愛し、イエス様に従おうとする私たちも、イエス様と同様に迫害を受ける！って…。何故なら、世の人たちは、私たちクリスチャンの内に…、キリストを見るからです！私たちが現代にあって、イエス様が語られた内容を語り…、イエス様がなされたことと同じようなことをするなら…、当然、この世は、私たちクリスチャンに対しても、牙をむいてくるのです。それは、むしろ、当然のことですよね？

しかし、13 節をご覧ください…。『しかし、悪人や詐欺師たちは、だまされたりしながら、ますます悪に落ちて行くのです。』とあります…。ここで、『悪人』と訳されている言葉は、「積極的に、悪を行おうとしている者」を指しています(新聖書注解より)。また、ここで、『詐欺師』と訳されている言葉は、「詐欺師(の他に)、まじない師、いかさま師」とも訳され得る言葉で、「悪意をもって、人をだまされたり…、あざむこうとしたりする者たち」のことです…。そして、ここで、『落ちて行く…』と訳されている言葉(προκόπτω)は、「進んでいく、前進する…」という意味の言葉なのです…。

つまり、ここで言われていることは…、「神に従おうとするのではなく…、悪を行っていかうとするような者たちは、益々、悪に悪を重ね…、悪の方向に進んで行ってしまおう！」と警告してくれているのです…。そこにあるのは、この世での一時的な成功などではありません！当然、満足や喜びなどといったものでもありません！騙し騙され合う、世界です…。自分が人のことを手玉に取っているように思っているも…、いつ、その立場が逆転するか分からない…。人を利用しているつもりでも、実は、自分が利用されているかも知れない…。いつ、自分が破滅してしまうか分からない…。そのような危なく、虚しい世界です…。

同じようなことが、ローマ 1:20 以降でも教えられています。『20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。21 それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうものかたちに似た物と代えてしまいました。24 それゆえ、神は、彼らとその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。25 それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。…』

⇒ここで、みことばが教えてくれていることは、神様を信じようとしなないことの結果…、その末路です。聖書は、はっきりと教えてくれています！「私たちが信じようと思えば…、神様が存在することの証拠は確実に存在する！」って…。それなのに、人間たちは神様を信じようとはせずに、おごり高ぶってしまっている…。だから、神様は、敢えて…、人間たちを好き放題にさせておられるのです…。

確かに、世の多くの人たちは、真の神様を信じようとはしません…。何故なら、世の多くの人たちは、

熱心に、真理を探究しようとはしていないからです…。そのことを、みことばはこのように教えてくれています…。エペソ 4:17-19、『17 そこで私は、主にあって言明し、おごそかに勤めます。もはや、異邦人がむなしの心で歩んでいるように歩んではなりません。18 彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています。19 道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行ないをむさぼるようになっていきます。』⇒一体どうして、不信者たちは救われないのか？そのことについて、このみことばは説明してくれています。それは、神が救ってくださらないからじゃない！彼らの方が、神様を拒んでしまっているから、なのです！

前にもお話ししましたが、ここで、『無知』と訳されている言葉(ἀγνοια)は、「怠慢、なまける」という意味の言葉です。また、『かたくなな心とのゆえに…』とありますように、彼らが、神様に対して、心を頑なにしているから…、そのために、彼らは、『神のいのちから遠く離れてしまっている』と、このみことばは教えてくれています。要は、不信者たちの選択であり…、彼らが自分たちの罪を悔い改めたくない！という心が問題なのです。だって、そうじゃありません、皆さん？いくら、私たちが、熱心に話をしても…、多くの人たちは、真剣に耳を傾けてくれないじゃないですか！

実に残念なことですが…、多くの人たちは、本当は…、真理を知りたくはないのです！認めたくないのです！…一体、どうしてなのでしょう？そのことを、使徒ヨハネは、このように教えてくれています。ヨハネ 3:19-20 をご覧ください。『19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。20 悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。』⇒ここでも、つい先程紹介したことと同じようなことが教えられてあります…。ここでも教えられてあるのは、不信者たちの方向性であり、彼らの頑なさであります。彼らが光よりも、闇を愛したからです！彼らは、自分たちの行ないを…、自分たちのこれまでの生き方を変えたくないのです！もしも…、自分たちが真理を知って、真の造り主なる神様を信じたり…、自分の罪が裁かれて、永遠の裁きがあることを認めたりすると…、自分の生き方を変えないといけなくなるのです！でも、それはしたくないのです！自分の罪を認めて…、悔い改めたくないのです！それこそが、多くの人たちが神様を信じようとしぬ理由なのです。

● 聖書には、「根拠」がある！

しかし、今日の聖書箇所、14-15 節をご覧ください。『14 けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。』とあります。

確かに、この世の多くの人たちは、聖書が教える真の神様を信じずに、益々、墮落してしまっています。しかし、だからこそ、みことばは私たちにこう勧めるのです！「みことばに留まりなさい！あなたがこれまでに学んできたことを、もう1度、しっかりと思い起こしなさい！」って…。

皆さんは、こんなことを考えたことはないでしょうか？「本当に聖書の教えは真実なのだろうか？」って…。特に、クリスチャンホームで生まれた子どもたちは、自分が、まるで、洗脳されていたかのように思ったりすることがあります…。その理由の1つは、あまりにも…、彼らの周りにノンクリスチャンが多いからです！

でも、皆さん…。特に、クリスチャンホームで生まれ育った方たちに、覚えていただきたいと思えます…。聖書には…、いえ、聖書にこそ…、はっきりとした根拠があるのです！…宗教という点に関して言うならば…、多分、私は、この日本という国にあって、比較的、平均的な家庭に生まれ育ったと思います。…と言うのは、私が小さい頃から、家には仏壇や神棚があり…、かばんに御守りを付けて、学校にも行ってましたし、毎年、正月には初詣にも行ってたからです…。

私だけでなく…、多くの日本人がそうでしょうが…、多くの人たちは、様々なことを何の根拠も無しに教え込まれて…、それが正しいことのように信じ込んでしまっています。私が小さい頃…、「お盆になると、先に死んだご先祖様が帰ってくる…」と聞かされました。しかし、本当なのでしょう？その根拠は、一体、どこにあるのでしょうか？「悪いことをすれば、地獄に行って、閻魔様に舌を抜かれる…」とも聞きましたが、じゃあ、一体、誰が地獄に行かないのですものなのでしょうか？…だって、嘘をついたことのない人間なんて…、まず、いないじゃないですか！

「自分は、クリスチャンホームに生まれてきたから…、一種のマインドコントロールを受けてきたようなものだ…。」…そんなことを考えた青年たちと話をしたこともあります…。でも、本当にそうなのでしょう？⇒いいえ！恐怖を与えて…、その恐ろしさから逃れられないようにするのが、マインドコントロールです！都合の悪い情報をシャットアウトして…、相手に自由に考えさせないようにすることがマインドコントロールです。しかし、聖書は違います！聖書は、私たちに知恵を与えて…、真理を教えてください。聖書は、私たちに自由を与えて、学ぶことを勧め…、益々、確信を与えてくれる神の書物なのです…。この世に生きている大多数の人たちは、何が真実なのか…、自分が何をすべきなのか…、何が正しいことで、価値あることなのかということを考えようとさえしません…。しかし、聖書を読み、真理を知ったクリスチャンたちは、常に、神の存在について…、自分の生き方について考え…、益々、真理というものを探究していくのです。これは、まさに、神様からの恵みであり、神様からのプレゼントなのです…。

もしも…、クリスチャンホームで生まれ育ったあなたが、この聖書のみことばを、嘘っぱちだと思うなら…、どうぞ、聖書の教えと正反対に、あなたの好き勝手に生きてみてください！…もしも、あなたが、聖書のみことばに反した生き方を送り続けることができるなら、あなたは、正真正銘の未信者でしょう…。でも、もしそれができないなら、あなたは、聖書のみことばを、一部ではあっても信じているから、ではないでしょうか？もし、あなたが、聖書の教えを完全に否定できないのなら、中途半端な歩みを止めて…、熱いかぬるか、そんな中途半端な歩みを止めて…、“本当に価値あること”について考えてみてください！

この、14b-15 節に注目してください…。ここに、『あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。』とあります。これは、この手紙の受取人であったテモテに対して言われていることです。Ⅱテモテ 1:5 には、テモテの信仰が、テモテの『祖母ロイス』と、テモテの『母ユネ』から受け継がれたものであることが書かれています。

ここ、14 節では、そのことが、テモテがこの信仰に留まるべき理由として挙げられています。これはどういうことなのか、皆さん、分かってくださいませ？⇒それは、テモテの母も…、また、その母も…、素晴らしい信仰の持ち主で、テモテにとっての良き証し…、良き模範であったからです！

私たちクリスチャンは皆、それと同じように、子どもたちにとっての良き証し…、良き模範でなくてはなりません！それは、「この人の言うことだったら信頼できる…。この人のようになってみたい…。この人のように生きていきたい…。」というような証しです。…しかし、果たして、私たちは、家族に対して…、あるいは、教会の子どもたちに、そのような良き証しとなっているのでしょうか？少なくとも、テモテの母や祖母は、そうだったのです！ここで、テモテの父親のことが何も伝えられていないのは、恐らく…、父親はクリスチャンではなかったのかも知れませんが…。

先程読んだ 15 節には、テモテが、『幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。』とあります…。このことも、テモテが、この信仰に留まり続けるべき理由として挙げられています。「テモテのように…、幼い頃から聖書に慣れ親しんできた者は、多くのノンクリスチャンの者たちとは違い…、幼い頃から造り主について考え…、真理について考え…、神の前に正しいこと…、正しくないことについて教えられて…、それらが根拠のあることを知っているはずですから、そこに留まっていなさい！」と言うのです。そ

れだけではありません…。クリスチャンホームに育った者たちは、神様に従おうとしない悪人たちが、益々、道を踏み外して…。転落していくさまを知っています。そういった人生が如何に愚かで…。虚しいものであるかを、皆さんは知っているはずなのです…。

ここで、かなり俗的な話をさせていただきますと、最近、お笑い芸人の渡部建さんという人が、スクープされて、大変な話題になりました。私も、そこそこ知っている方なので、大変驚かされました。世間一般のコメントと言うか、評価を聞いていますと、「あれほど、お笑い界で地位を築いて…。勘違いコントという新しいお笑いを開発して、奥さんは、最高の美人、年収は1億とも言われています。「それだけのものを手にしていながら、一体なぜ…？」というのが、世間一般の声という感じです。

しかし、私に言わせると、私たち人間の欲望には満足や限界というものはありません。その欲を満たせば満たすほど、今度は、その次があるのです！その渡部さんだけではありません。すべて…。真の神様を知らない人たちは皆、何を熱心に追い求めているのでしょうか？…彼らが追い求めているのは、この世の成功であったり、お金であったり、地位であったり、名誉であったり、贅沢であったり、人からの称賛じゃないでしょうか？

でも、今回のことで分かったのは、いくら、この世の称賛や成功を手にしたところで、そのようなものは、一瞬で崩れ去ります。そうでしょ？…一体、どうしてか？それは、彼らが追い求めているものが、本当に価値あるものではないからです。そうじゃありません？

クリスチャンホームで生まれ育った皆さん…。皆さんは、神様の素晴らしい導きのもと…。そこで育っていくことができ…。大切なことを教えられてきたのです…。それは、大きな恵みです…。この世の中を見てみてください。神様を知らず…。神様に従おうとしない者たちが、とんでもない悪の道に走って、取り返しのつかない犯罪に陥ったり…。みじめな人生を送ったりもしています…。その行き着く先は、永遠の裁きであり…。永遠の地獄、終わることのない苦しみののです！

どれほど多くの人たちが、永遠について深く考えることなしに死んでいくでしょう…。彼らこそ、ある意味、マインドコントロールを受けていると言えるかも知れません…。悪魔による陰謀・策略です！「神なんていない！すべてのものは創造主なしに…。自然にできたのだ！」って…。いいえ、ノンクリスチャンの方の中には、そんなことさえ考えない方もおられると思います…。しかし、神様は、ここにおられる皆さんに、この聖書を通して…。真理を伝え、様々なことについて考えることの大切さを教えてくださっているのです！

ですから、どうぞ、真剣にみことばを学び…。自分自身でも考えてみてください。自分なりに、しっかりとした確信に至ってください！1番残念なのは、大して深く考えもせず、「自分は長年、教会にきているからクリスチャンなのだ！聖書の内容も知っているし、ちゃんとバプテスマも受けているのだから、救われているに決まっている…。」などというように、根拠らしい根拠のないまま…。真剣に考えることなく、決めつけてしまうことです…。どうぞ、しっかりと、みことばを学び、考えた上で、確信に至ってください…。

●聖書が教える「救い」とは？

では、聖書が教える救いとは、一体、何なのでしょう？⇒ここ、15節の後半にごうあります。『聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。』って…。確かに、聖書は、すべてを造られた…。唯一の創造主なる神様がいらっしやることを教えてくれています。しかも、当然のことながら…。その神様は、感情や御意志を持っていらっしやいます！つまり、目的をもって、様々なものをお造りになられ…。すべてのことをなしておられるのです！

しかし、残念ながら、生れながらの私たち人間は…。その神様の性質に反する、「罪」という醜い性質

をもって生まれてきます…。だから、私たち人間は、生れながらに自分勝手であり…。誰からも教わることなく…。自然に、嘘をついたり、人を憎んだり、ねたんだりしてしまうのです…。

すべての人間は、神様の前に罪人であり…。本来ならば、神様の裁きを受け…。その、当然の報いである永遠の刑罰に服する運命にあります…。それが、所謂、地獄です…。皆さん、ご存知でしたか？ルカ 16:19-31 の、「金持ちとラザロ」の話に出てくる、『苦しみの場所』とは…。厳密には、地獄のことではありません…。最終的な裁きを待つまでの間、閉じ込められている場所(ハデス＝言わば、拘留所のようなもの?)のことなのです…。最終的な裁き(=ゲヘナ)が、黙示録 20:10-15 に載っています。『10そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところから従って、自分の行ないに応じてさばかれた。13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのの自分の行ないに応じてさばかれた。14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。』

「これこそが、造り主である神様を拒み…。罪に罪を重ねて生きてきた私たち人間が受けるべき当然の報いである！」と、聖書は教えます…。残念ながら、すべての人間は、生まれながらに神様の御怒りを受けるべき存在であるのです。しかし、だからこそ…。神様は、私たち人間に救い主を与えてくださいました…。それこそが、イエス・キリストです。

だから、今日の箇所 15 節には、『キリスト・イエスに対する信仰による救い…』とあるのです。イエス様は、私たちの罪を、その身に背負って…。私たちの身代わりとなって、十字架上で、私たちが受けるべきすべての、罪の罰を受けてくださったのです！あと…。問題は私たちです！この救い主であるイエス様を自分の神、救い主として信じ、受け入れるかどうかの選択が私たちには与えられています…。

ここ 15 節では、『聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができる…』とあります。選択が、皆さんには与えられているのです！皆さんご自身が、そのことを決めないといけないのです！その判断は…。そのための知恵も…。実は、聖書から学ぶことができるのです。だから…。私たちは聖書をしっかりと学んで、神様からの知恵を吸収していく必要があるのです。

II・私たちの 霊的 成長！(16-17 節)

2番目に、今日のみことばが教えてくれていることは、『私たちの“霊的”成長』です…。聖書のみことばは、私たちのことを霊的に成長させてくれる、神の書物なのです…。

16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。

17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。

●聖書のみことばが特別な理由

ここ 16 節には、なぜ、聖書のみことばが特別なのかという…。その理由が書かれてあります。それは、聖書のみことばというものがすべて、神の靈感によって書かれたものだからです。ここで、『靈感による…』と訳された言葉(θεόπνευστος)は、「神」という言葉と、「息が吹く、風が吹く」という意味の動詞とが合わさってできた合成語です。神様が、御自身の息を送りこんでくださったことによって…。このみことばは書かれたのです。「間違いなく…」と言って良いほど、この言葉は読む者たちに、創世記にあるみことば

を思い起こさせます。創世記 2:7 に、こうあります。『その後、神である主は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで、人は、生きものとなった。』⇒ただの土くれであった人間に、神様の息が吹き込まれたことによって、初めて、人間はいのちあるものとなりました…。それと同じように、聖書のみことばも、ただの文字の羅列なのではありません。神の力が宿った…。生きた書物なのです。

しかも、ここには、『**聖書はすべて…**』と書かれてあります。ここで、『**聖書**』と書かれている言葉を直訳すると、単に、「書かれたもの」という意味なのですが、この当時、この言い回しは、旧約聖書全体を指す言葉として定着していたそうです。ここで、『**すべて…**』と訳されている単語には冠詞が付いていません。それ故に、ここで言われている内容は、旧約聖書全体と言うよりも…、一言一句というように考えるべきなのです（新聖書注解より）。つまり…、旧約聖書だけではなく…、当然、新約聖書も…、それらを構成している一字一句すべてのみことばに、神の霊感が働いていて…、神様の力が宿っているのです…。だから、皆さんもよくご存知のように、ヘブル 4:12 には、『**神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやばかりごとを判別することができます。**』とある訳です。

実に残念なことですが…、多くのキリスト教会が、「聖書は神の靈感によって書かれたものである…」ということ認めながら…、「その聖書の中には間違いも有り得る…」というように考えたりします…。あるいは、私たち人間の知恵や、会議での決定事項に、聖書と同等の地位を与えたりすることがあります。しかし、ここにおられる皆さんは、よくご存知のはずです…。聖書のみことばは、神様によって書かれたものであるが故に…、間違いがなく…、どんなものよりも私たちの心に働きかけてくれます…。それは、このみことばを書かれたのが、私たちのことを誰よりもよく御存知の神様だからなのです…。

16 節の後半部分では、聖書の有益性…、つまり、その働きについて語られています。①それは、まず第1に、『**教え**』です。この言葉(διδασκαλία)は、「教え(の他に)、教訓」とも訳せる言葉なのです。私たち人間にとって必要な様々な有益な教えが、聖書にはつまっているのです。

②次に、『**戒め**』です。この言葉(ἐλεγμός)には、「叱責、非難」などという意味もあります。特に、この言葉は、「罪や間違いを指摘すること」を意味しています。私たちの間違いを、みことばは教えてくれるのです。

③3つ目は、『**矯正**』とあります。この言葉(ἐπανόρθωσις)の、元々の意味は、「曲がってしまったものを、もう1度、まっすぐに戻すこと」です。聖書は、私たちが本来進むべき道を示し…、あるべき姿に戻そうとする力があるのです…。

④最後、4つ目は、『**義の訓練**』です。この『**訓練**』という言葉(παιδεία)には、「教育、しつけ」などという意味もあります。罪に染まってしまった私たち人間が、正しく生きていくには、訓練が必要です。何故なら、私たちはさますと、すぐに楽な…、罪の道にそれてしまうことが有り得るからでしょう…。

●聖書が私たちに導いてくれる到達点とは？

このように…、聖書とは、全知全能の神様のお言葉であるが故に、私たちに救いをもたらしてくれるだけでなく…、信仰によって救われた後も、私たちが成長させてくださいます。…と言うことは、つまり、言い換えるならば…、私たちは救われただけで満足し…、そこで終わってしまっているはいけません！

ヤコブ 1:22 に、こう命じられています。『**また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。**』って…。そして何より、イエス様は、弟子たちに、こう警告なさったこと

とを、皆さんはよくご存知です…。マタイ 7:21-27、『21 わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なわない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」28 イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。』

私たちは、みことばから真理を知り…、救われただけで満足していたのでは、不十分です！今日の聖書箇所、最後の部分、17 節をご覧ください。『それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。』とあります。ここで言われている、『**神の人**』とは、どのような者のことでしょうか？⇒この言葉は、旧約聖書では、モーセやサムエル、エリシャ、ダビデ、ネヘミヤ(シエマヤ)などに対して使われています。新約聖書では、テモテに対してだけです。恐らく、この言葉は、神様に用いられる、敬虔な信仰者のことを指しているのだと思われます…。

私たちが、**霊的に成長させられて…、神様の前に、良い働きをするために必要なことは、みことばを学ぶこと**です！みことばによって成長させられ…、その学んだみことばを実践していくことなのです…。

実際、私は、これまでに、みことばを真剣に学ぶことなしに…、クリスチャンとして成熟させられた例を見たことがありません…。恐らくは、皆さんもそうではないでしょうか？そして、反対に…、聖書を熱心かつ正しい動機で学び続けたにも関わらず、クリスチャンとして成長させられなかった…、という例も、私は見たことがありません…。そのように、みことばに対する態度と、その人の霊的成長とは、密接な関係があるのです！まさしく…、**1ペテロ 2:2** で、『**生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。**』とある通りです。

皆さんは、直接、聖書から学んでくださっているでしょうか？真の神様について…、永遠について…、罪について…、救いについて…、様々な根拠を、自分自身で考え、また、判断して確信しておられるでしょうか？「昔、この人が、そう言っていたから…」というのは、今日のみことばにあった、『**学んで確信したところにとどまって**』(14 節) いるとは言えません…。私たちは、聖書のみことばを通して、直接、学ぶことができるのです！このことは、ギリシヤ語で聖書を読めないといけない、ということではありません…。普段のメッセージを集中して聞いて…、自分自身でもしっかりと理解して、納得して下さることです…。

その昔、私は、仏式の葬儀に出席した時、住職に幾つかの質問をして、こんなことを教えていただきました…、①亡くなった方は、死後49日かかって、極楽に行かれるとか…、②死んだ後も、家族のことを見守って、助けてくださるとか…、③現世とあの世をつなぐ扉が仏壇であるなどという話を聞きました…。正直、とても良い話で、また、ありがたい話でした…。しかし、私が同時に思ったのは、「どこに、そう信じるだけの根拠があるのか？」ということでした…。

皆さんは、どうでしょうか？⇒確かに…、聖書の教え以外にも、聞いていてありがたい話があります…。

何となく、「そうであつたら良いな。うまく、考えられているな」と感心させられることもあつたように思います。しかし、過去、私には、たったの1度も、それを信じるだけの、確かな根拠を見出すことができませんでした。皆さんは、いかがですか？

でも、聖書のみことばには、そう信じるだけの根拠があります！たくさんの証拠があります！聖書だけが持っている、数多くの特徴があります！預言の成就があります！何より…、イエス様の復活がそうです！聖書はまた、様々な疑問や謎に答えを与えてくれます…。それは、聖書だけが…、私たちに与えられた神様からのお言葉である証拠です！

どうぞ、益々、この聖書を学び…、そうして得た確信に従って…、悔いのない、価値ある人生を歩んでいってください…。そのことを、心からお勧めいたします。まだ、イエス様のことをお信じになつておられない皆さん。天の神様は、あなたが、1日も早くに、この神様を信じて、救われることを心待ちにしてくださっています。どうか、この世の中が教えることに真理があるのか？あるいは、この聖書のみことばこそが真理なのか？そういったことを、皆さんが、できるだけ早くに、かつ、しっかりと検証していただくことを願います。どうか、このことは、皆さんの一生(生き方)を左右するだけではありません。皆さんの死後、その永遠を左右する問題でもあります。どうか、後で後悔することの無いよう、しっかりと吟味していただきますことをお勧めいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。